

【学校だより】



はまなつめ

第 21 号

令和 7 年 3 月 1 日 (土)

長崎市立川原小学校

校長 神田 学

『一人一人が輝き、笑顔あふれる学校 ～ 子どもも教師も輝く学校 ～』

アメリカ在住の方とのオンライン交流 (外国語科・国際理解教育)

小学校 5・6 年生に外国語科が導入されて今年で 5 年目となりました。外国語科の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す。」です。

活動においては、**コミュニケーションの目的・場面・状況を意識することを目指しています。**



2月21日(金)、アメリカ在住の ALT のお母さんとオンライン交流をしました。

この1年、外国語科で学習したことを活かして ALT のお母さんとコミュニケーションを図るという**目的**で、「ZOOM」を使ったオンラインでの交流という**場面**で、ライブでアメリカ在住の方とコミュニケーションを図るという**状況**を意識しました。ただ単に英語を発するだけの学習ではなく、そこに英語で話す**目的・場面・状況**がある授業、一年の外国語科のまとめとなる学習をめざしました。

こちらは朝でしたが、アメリカは前日の夕刻でした。子どもたちは、アメリカとの時差も感じていました。対応していただいた ALT のお母様に感謝したところです。

150 周年記念劇「THE SOUND OF MUSIC ♪」について

「川原小 150 周年実行委員会」の皆様の計画により令和 7 年 6 月 15 日 (日) に 150 周年記念式典を予定しているとお知らせをしていたところです。その式典において、子どもたちに出し物をしてほしいと学校に依頼がありましたので、現 5 年生が 150 周年記念劇「THE SOUND OF MUSIC ♪」を披露するよう準備をしています。台詞がすべて英語の英語劇 (ミュージカル) です。この取組は、外国語教育、国際理解教育、平和教育、音楽教育などなど、総合的な学習の時間の枠をさらに広げたインテグレートドスタディ (integrated studies 総合学習) を目指しています。3 月 3 日 (月) の 6 年生を送る会において、リハーサルを兼ねて、式典の時には中学生になる 6 年生に披露する予定にしています。ただ、まだまだ練習途中ですのでどうなりますでしょうか？

地域・保護者の皆様には、150 周年記念式典で披露させていただきますので楽しみにしていただきますと幸いです。

次ページに川原小学校 150 周年記念劇について紹介しております、ご覧ください。

THE SOUND OF MUSIC ♪ (サウンド・オブ・ミュージック)



<キャスト(川原小学校150周年記念劇バージョン)>

マリア(家庭教師) トラップ大佐(父) リーズル(長女) ルイーザ(二女) ブリジッタ(三女)
フリードリッヒ(長男) マルタ(二男) グレーテル(四女) クルト(三男)
マックス(大佐の友人) ゼラー(軍人) ナレーター

<ストーリー(川原小学校150周年記念劇バージョン)>

舞台はオーストリア(ザルツブルグ)、1938年のドイツによるオーストリア併合・第二次世界大戦前夜。

マリアは修道女見習い。ある日、修道院長に、トラップ大佐の7人の子どものための家庭教師をするように勧められ、トラップ邸へ向かう。

トラップ大佐はオーストリア=ハンガリー帝国海軍の退役軍人で数年前に妻を亡くして以来、子どもたちの家庭教師が長続きしないことに困っていた。大佐は子どもたちを軍隊のように厳しく躾(しつけ)ているが、子どもたちはいたって快活。マリアがトラップ邸に来て早々、子どもたちは、早速、マリアのギターにいたずらをする。

子どもたちがいたずらや悪さをするのは父(大佐)の気を引きたいからだと言われたマリアは、歌を歌って気を引いてはどうかと考える。しかし、子どもたちは、母を亡くしてから長く家で音楽を奏でることがなかったため、皆が知っている歌がひとつもないと聞いて驚く。そこでマリアは子どもたちに歌の基礎の基礎、ドレミの階名から教えることとする。

マリアは父(大佐)に子どもたちに目を向けてほしい、寂しさに応えてあげてほしいと必死で訴える。父(大佐)は聞く耳を持たなかったが、子どもたちの合唱する声に吸い寄せられ、自らも長い間忘れていた歌を歌う。自分の教育方針は独りよがりだったと父(大佐)は詫言、マリアは引き続き家庭教師としてトラップ邸に留まるよう依頼される。

大佐(父)の友人マックスは、子どもたちを合唱団として売り込むことを提案する。

大佐(父)に対し、ドイツ海軍からの出頭命令が下る。愛国者でありドイツのオーストリア併合に反対する大佐(父)は、ドイツ軍の言うとおりに出頭する気はなく、時代の大きな波を感じとり、中立国であるスイスへ一家で亡命することを決意する。

大佐(父)は、自身が反対していた音楽祭を口実にし、ゼラーは音楽祭が終わり次第護送するという条件を出して、護送の延長を許した。親衛隊の厳重な監視の下、ザルツブルグの祝祭劇場で行われた音楽祭の審査の結果、3位、2位と発表されて最後に優勝としてトラップファミリーが発表されるがトラップファミリーは舞台に現れず、その表彰式の際にトラップファミリーは劇場から逃げ出し、逃亡先のスイスへと向かう。

国境線が全て閉鎖されているため、トラップファミリーは徒歩で山を越えてスイスにたどり着く。